

消防本部・消防署50年の歴史



現市役所西庁舎にあった旧消防庁舎。約23年間その役目を担った



屈折はしご付消防ポンプ自動車(スノーケル車) [写真5]。写真は写生大会の様子



水槽付消防ポンプ自動車 [写真4]



救急業務を開始した当時の救急自動車 [写真3]



当時は1階建ての消防庁舎 [写真2]



新設された消防署に看板をかける [写真1]

昭和	平成	令和
37年6月	2年4月	37年6月
消防本部、消防署が新設され、消防団常備部員11人、新採用4人の計15人で発足 [写真1]	秋葉山に消防用無線中継局を設置	消防本部、消防署が新設され、消防団常備部員11人、新採用4人の計15人で発足 [写真1]
38年10月	3年1月	38年10月
消防専用超短波無線局を開設	消防署本署に救助工作車を配置	消防専用超短波無線局を開設
43年3月	6年2月	43年3月
消防本部・署が総社795番地(角藤田総社給油所南)へ移転 [写真2]	新消防庁舎が完成(小寺。現在の位置)	消防本部・署が総社795番地(角藤田総社給油所南)へ移転 [写真2]
46年3月	7年1月	46年3月
久代「正木山林野火災」発生(焼損面積61 ^{ヘクタール})	総社市花火大会での花火爆発火災発生	久代「正木山林野火災」発生(焼損面積61 ^{ヘクタール})
47年1月	8月	47年1月
消防署に水槽付消防ポンプ自動車(スノーケル車)を配置 [写真4]	阪神・淡路大震災救援活動のため、救助隊及び消火隊を派遣	消防署に水槽付消防ポンプ自動車(スノーケル車)を配置 [写真4]
48年4月	9年3月	48年4月
黒尾「黒尾・久米林野火災」発生(焼損面積89 ^{ヘクタール})	岡山自動車道が開通し、岡山総社ICと賀陽IC間下り線の消防・救急等の業務を開始	黒尾「黒尾・久米林野火災」発生(焼損面積89 ^{ヘクタール})
49年2月	12月	49年2月
「7・7豪雨災害」発生	指令装置を最新の消防緊急通信指令システムに更新	「7・7豪雨災害」発生
50年3月	13年3月	50年3月
消防署真備出張所に救急自動車を配置し、救急業務を開始	下倉地内採石場崩落事故発生。直後から現場で人命救助活動に当たる(死者2名、不明者1名)	消防署真備出張所に救急自動車を配置し、救急業務を開始
52年4月	15年11月	52年4月
消防団の再編成を行い、785人に	救急自動車(2B型)更新に伴い高規格救急車を消防署に配置	消防団の再編成を行い、785人に
53年10月	16年10月	53年10月
消防本部の機構を改革し、課制を導入。庶務課・警防課の2課に	兵庫県豊岡市の豪雨災害へ緊急消防援助隊として隊員を派遣	消防本部の機構を改革し、課制を導入。庶務課・警防課の2課に
55年4月	17年2月	55年4月
消防署昭和出張所に救急自動車を配置し、救急業務を開始	救急自動車(高規格)を更新し消防署に配置	消防署昭和出張所に救急自動車を配置し、救急業務を開始
57年4月	18年3月	57年4月
消防本部の機構を改革し、課制を導入。庶務課・警防課の2課に	都窪郡清音村・山手村と合併し新総社市が誕生	消防本部の機構を改革し、課制を導入。庶務課・警防課の2課に
59年4月	18年4月	59年4月
消防署昭和三出張所に救急自動車を配置し、救急業務を開始	女性消防団員を新規に採用	消防署昭和三出張所に救急自動車を配置し、救急業務を開始
61年4月	22年3月	61年4月
消防本部の機構を改革し、課制を導入。庶務課・警防課の2課に	「東日本大震災」発生に伴い、緊急消防援助隊を派遣	消防本部の機構を改革し、課制を導入。庶務課・警防課の2課に
63年4月	23年3月	63年4月
消防本部の機構を改革し、課制を導入。庶務課・警防課の2課に	「東日本大震災」発生に伴い、緊急消防援助隊を派遣	消防本部の機構を改革し、課制を導入。庶務課・警防課の2課に

後方から支え続けてきた消防団

現在1003人の団員を束ねる大月亮団長(日羽)は、「消防本部には熱心に団員を指導していただき、消防団はできるかぎり後方支援をするという良い関係で50年間、市民の安全安心を守ってこれた。これからもこの関係を受け継いでいってほしい」と話しました。



大月亮 消防団長
日美分団長や市消防団副団長などを歴任し、平成13年4月から団長を務めている

人の生命を救う人

救急業務は昭和43年から始まり、現在は26人の救急救命士を中心に業務に当たっています。そのうちの一人西川貴さんは「1台の救急車から始まった救急業務。今では高規格救急車4台を含む5台体制です。50年という歴史をかみしめ、今後も多くの命を救えるよう努力したい」と話します。



西川 貴 主査
救急救命士の資格を平成13年に取得。現在は消防署救急係の指導的立場として活躍している

消防庁長官表彰を受章

防災思想の普及や災害防除の対策など他の模範となる消防機関に対して贈られる消防功労者消防庁長官表彰で団体表彰としては最高の「表彰旗」を総社市消防本部・総社市消防団が平成22年3月に受章しました。



受章当時、消防長の大角洋二さん(新本、写真左)は「それまでの歴史が認められての受章はとても光栄でした。これからその歴史に恥じぬよう消防職員と消防団にはがんばってほしい」と、OBとしてエールを送りました

市民の安全安心のため

災害を防除し、軽減するには、消防団や警察と連携し、地域の自主防災組織や防火協会などと緊密な協力関係を築くことが重要です。「災害に強いまち」を目指し、今後とも総社市消防本部・消防署はまい進していきます。



50周年を迎え、消防長は「総社の消防は地域の皆さんや関係者の深いご理解とご支援、ご尽力によって組織、施設、装備など着実に発展を遂げてきました。今後も一層のご理解とご支援を賜りますようお願いいたします」と話しました